

# 映画を活用して八丈島の活性化を

ブロードバンドの環境整備が進むなか、観光事業を中心に官民協働の動きが活発になってきている八丈島。映画『今日という日が最後なら』の撮影を機にフィルムコミッションも設立、映画を通じた島のPRにも力を入れている。島の観光産業をどう創っていくか、その実践の様子を紹介。

八丈町商工会では、全国商工会連合

会の「小規模事業者新事業全国展開支援事業」と八丈町の補助を受け、慶応大学の学生さんたちが中心となって製作した映画『今日という日が最後なら』を支援、映画を活用した活性化事業に取り組みました。映画公開後、監督が女優であり、学生でもある、また映像がきれい、ということ、マスコミにも大きく紹介され、島のPRに貢献、露出機会の増加を期待しているところです。

また、平成一九年八月には、シナジースキーム事業としてフィルムコミッション（映画などの撮影誘致や撮影支

援をする非営利組織）を立ち上げるのができました。映画やコマーションなどのロケ支援体制を整え、島の活性化を図ろうというものです。三六〇度の映像で八丈島を紹介するWEBサイトを構築、新たな切り口から島の紹介もしています。

一六年三月にブロードバンドが開局されてから、島の環境は変わり、若い仲間が表に出ることが多くなってきました。そして観光事業などの取り組みに、官・民・住民が一体となった展開が行われるようになってきています。八丈島にネット環境が誕生したときから、映画製作支援にいたるまでを、

流れに沿って紹介したいと思います。

## 孫正義社長が島を変える

八丈島への来島者は年々減少傾向が続いていましたが、平成一二年の三宅島噴火以降、風評被害などで来島客はさらに激減し、厳しい経済環境に突入しました。大型ホテルなどの閉鎖、一次産業の低迷で島内の人口は減少、景気はますます落ち込み、交通環境の悪化も加えて悪循環の様相を示し始めました。島では、それらを打破し、来島客の増加を図ろうと、航空運賃値下げ運動、ブロードバンド誘致活動などが

懸命に行われていました。

ブロードバンド環境の整備については、若い人たちを中心に「ブロードバンドを推進する会」が先行して活動が一〇〇人以上の署名を集めて活動が始まりました。当時、ブロードバンドの整備には莫大な費用がかかると、N T Tなどは逃げ腰でしたが、ソフトバンク社長の孫正義氏の来島で環境が一変しました。孫社長の来島は一五年八月四日、仲間のひとりが島の現況を直訴し、それに応えてくれたもので、孫社長は「一六年四月を目標に整備する」と約束してくれました。

「推進する会」では新たな仲間を募り、「八丈島おこし実行委員会」を設立、事務局を商工会内に設置しました。委員長には商工会長の私が指名され、若い仲間と商工会とが連携した活動が始まりました。まずはソフトバンクとの約束に添えていくため、ヤフーBBへの加入促進運動や、ブロードバンドの普及活動に取り組んでいきました。そして、「ブロードバンドを利用した

島おこし」をメインテーマに、ロゴ募集（応募六五〇点）、アイデア募集（応募四五〇点）、公衆無線LANの設置、空港へのパソコン設置、講習会の開催、と次々に活動を展開していきました。N T Tも追っかけて伊豆諸島全体の整備に着手、ついに一六年三月、「ヤフーBB」「N T T光」とブロードバンド環境が一気に整備されました。

また、ブロードバンド整備に対する八丈町の対応は早く、島おこしメンバーに情報収集を依頼、八丈町の各種情報が一同に集まった「八丈島総合ポータルサイト」が翌年構築されました。またそのデータは、昨年始まった「八丈しまめぐりナビ」にも活用されています。

## プラス一万人運動

八丈島住民の悲願となっていた羽田―八丈島間の航空運賃値下げ問題（注）に対しては、八丈町では根気強くANA Aとの交渉を重ねていました。ANA

からは値下げ継続の条件として、一七年一〇月から翌年三月までの乗客を、前年より一割（約一万人）増加させることが示されました。乗客数の減少から羽田直行便四便のうちの一便を大島経由便に振り替えたときのことでした。

それを知った島おこしメンバーの二人は、相談していたら間に合わない「プラス一万人」のポスターをあちこちに貼り始めました。スーパー店内には、飛行機が飛んでいる映像を流すなど、いろいろなPRを行い、一二月に入ってきたころには住民も重大さに気づき、島内一円の運動へと拡がって行きました。八丈町では、「プラス一万人推進室」を設置、「おじゃりやれ（いらっしゅい）はがき」の作成や、小中学生の島外体験学習を積極的に支援し、民間では郷友会や知人親戚との交流を図るなど、島全体がプラス一万人のムードに盛り上がっていました。乗客人数増に貢献しようと、四月の法事を三月に前倒した方もいたほどです。

三月二十七日、ついに目標を達成、現

在の航空運賃はいつでも特割運賃となつています。価格にすると往復四〇〇〇円ほどの割り引きですが、住民の利用者は年間三万五〇〇〇人くらいいますので、年間で一億四〇〇〇万円が還元されていることになります。

## 立て続けに映画公開

一八年一月には『るにん』、二月『サイレン』、六月『トリック2』と、八丈島をロケ地とした映画が次々と公開されました。『るにん』では松坂慶子さん、『トリック2』では仲間由紀恵さんと、有名な役者さんたちが来島し、小さな島の中は、何かわくわくした雰囲気になっていました。

映画撮影が行われると、有名な役者さんに会えるなど、それだけでも島は活性化し、宿泊施設、飲食店、交通関係などに経済効果が生まれ、大いに歓迎したいところです。しかし、撮影する側からすると、見知らぬ離島でロケ地の下見、交通手段・飲食・宿泊・エ

キストラの手配と、難題もたくさん出てきます。照明や音響なども準備しなければならず、いろいろな形で島からの協力が必要となってくるからです。

たとえば、『トリック2』のロケでは、レンタカーや修理工場を経営している親戚の者が撮影の手伝いをしていて、たくさん荷物が運べる箱バンの車を貸して欲しいといわれ、我が社の車輛を持ちだし使用していました。

そんな状況から、フィルムコミッション（FC）が話題となり、映画支援の環境づくりをしようと、FC立ち上げの準備が始まりました。そして映画の好きなメンバーや島おこしグループ、町の担当者などで準備会を発足、八月に設立したFC立上げの原動力となっています。準備会では、映画『るにん』の先行試



映画『今日という日が最後なら。』のロケの様子。

写会を企画、「プラス一万人推進室」に事務局を置き、上映会への作業を進めました。そして一七年一二月、奥田瑛

二監督を迎えて先行試写会を実施、エキストラで出演した人たちを含め、八〇〇人もの入場者で賑わいました。また翌年一月、新宿で行われた試写会には、黄八丈を着た「めならべ」(八丈島の言葉で娘さんのこと)を連れて応援にでかけ、「るにん」焼酎などで八丈島をPR、「映画の島・八丈」をアピールしてまいりました。

## 映画『今日という日が最後なら』の製作を支援

『るにん』上映のころから、慶応大学の学生さんたちが八丈島を訪れ、一八年三月には「八丈島をどうすれば活性化できるか」という内容のゼミまで開催されました。そのゼミのメンバーから、「八丈島を映画にしたい」という話を持ち上がり、映画は学生や仲間がみんなボランティアで行うので、と云ってきたのが、大学を卒業したばかりの柳明菜さん(映画監督)でした。商工会内には、FC設立を進めようという空気もあったことから、全国連の「小規

模事業者新事業全国展開支援事業」の申請に踏み切り、申請が通ったら応援しようという軽い気持ちで約束しました。

一八年六月三〇日、申請書類が採択され、映画の支援が少々不安の中にはじまりました。その不安を一掃してくれたのは、柳監督が最初に撮影したショートフィルムでした。センスの良さや表現力などにすばらしさを感じたからです。

映画製作までに監督は数回来島し、ロケ地を下見しながら、宿泊、食事、足の確保、撮影現場やエキストラの折衝など、島からの応援依頼に奔走していました。撮影期間を、四月一〇日から五月連休明けまでの約一ヶ月間に決定し、一〇日、二〇数人のスタッフとキャストが東海汽船で島に乗り込み、撮影の準備がもくもくと始まりました。緊張感を覚えた一瞬でもありません。

## 「八丈島映画応援団」を結成

映画製作には、いくつもの不安要素

がありました。学生たちのボランティアで行う予定だったのが、就職活動や資金不足で、スタッフが入れ替わる状態が続いていました。また、私たちへは、「宿泊費がない」「二、三〇人ほどの食事を一日二万円でお願したい」「祭りの撮影は海岸沿いでやりたい」などと、無茶で、無理な相談が多く、脚本をいただいても映画のイメージがわかず、これで本当に出来るのかなと思ったほどでした。

しかし、彼女は不思議な力と運を持っていました。黄八丈の工房へ一緒にお願いに行ったとき、黄八丈の織りを教えてくれたのは柳さんという方だったと、同姓のよしみで話が順調に滑り出しました。小さなトンネルを通して海が見える場所のある古民家を探していましたが、そこに同席していた大勝組の会長が貸してくれることになり、後には、両者とも強力な応援者になっていました。

彼女の「島を活性化したい」という強い気持ちに、島の若い仲間も心を動

## 映画『今日という日が最後なら、』とは

八丈島生まれの双子姉妹。体の弱い妹（舞子）だけを残して母親は島を出る。20年後、自由奔放に育った舞子は「八丈祭」を催し、島を盛り上げようと企画する。お祭り直前、自分の死期が近いことを知った舞子は島を飛び出し、20歳の誕生日に姉（聖子）と再会する。閉鎖的な都会の環境にいた聖子は家を抜け出し、2人で島へ戻る。祭りに向かって動き出す2人だが、突然祭りが中止に。状況が変化するにつれ、2人の歯車は狂い始める。閉ざし続けた心、深い傷、舞子の病気、たった数日間で20年の時をどれほど縮められるのか。それでも一緒にいたい、過去でも未来でもない、いまを生きるために・・・

監督・脚本・編集：柳 明菜  
出演：森口彩乃、柳 裕美ほか  
2007年夏より順次公開  
カラー107分





かされ、「八丈島映画応援団」を結成、プラス一万人運動を再現するかのような応援団活動が始まりました。

私に与えられたのは、財政運営のお手伝いと宿泊部門でした。六〇坪ある古い家に少し手を加え、食事やミーティングができる二〇坪くらいの土間を造り、三〇人はいつでも自由に宿泊できる環境を整えました。また、お寺や近所の施設の協力により、総計六〇人分、布団と宿の確保をすることができました。

また、商工会を通し、東海汽船やANAとの運賃交渉、警察署の手続きや関係機関との交渉、備品の調達などに協力を行い、町には映画へのさらなる支援をお願いしました。ケータリングは、お金がないということから、婦人会や近所の人たち、仲間呼びかけ、ボランティアで食事を手配することになりました。食材は、野菜市場の皆さんに残り物を、漁師さんや加工業者さん、さらには漁業組合にまで雑魚を分けていただくようお願いしました。

広報関係は、地元中高生による「ジュニア応援団」を結成し、「応援団新聞」を発行。選挙ポスター掲示板を活用して、応援団手作りのポイント広告板を道路脇に掲げていきました。また、SNSを利用し、ネットで情報交換する仕組みを整え、ホームページやブログでの情報も発信、徐々に映画撮影を島の中に浸透させていきました。

このようにいろいろな取り組みが、映画と住民を結びつけ、無茶と思われた祭りの撮影を盛り上げ、映画を成功させたといってもいいと思います。ラストシーン（海岸でのお祭りのシーン）の撮影は、ほんとに大変でした。現場を仕切るのに、役場や商工会の職員、青年部を動員し、送迎バスやゴミ運搬車も配置。祭り会場の設営には、大神宮で祭を仕切っている皆さんやボランティアグループが



柳明菜監督

協力、一〇店舗の出店や舞台の設営、祭りの観客には一般の人たちや観光客の皆さんに夏の装いで参加していただきました。

そして打ち上げです。一二〇人以上の関係者が、古民家の持ち主である大勝組の倉庫に会場を移し、用意されたカジキマグロの兜焼や島のご馳走で、盛大なパーティーが開催され、夜遅くまで賑わっていました。スタッフ、キヤスト、島の人たち、みんなで映画を

つくったという思いは、撮影が終了した後にも余韻を残し、いまだに相互交流が続いています。商工会では、シナジースキーム事業のメンバーに学生を加えましたが、今後も学生たちとの交流を深め、彼らの柔軟な発想を大事にしていきたいと考えています。

撮り上がった『今日という日が最後なら』の上映は、「八丈島夏まつり」にあわせて七月二八日試写会を開催、約九〇〇人の住民に島の美しさを再認識させ、感動を与えてくれました。その後、「アジア海洋映画祭」「アメリカ・サンタモニカ映画祭」「さぬき映画祭」「三浦芸術祭」などへ出品、島根県隠岐の海士町でも上映会が催されました。その後は、映画館での上映にトライし、渋谷での上映は決定しましたが、一人でも多くの人に見てもらうため、まだまだ応援しなければと思っています。

## 離島ブームが始まっている

先日、農水省の方が八丈島に来島さ

れ、海士町の肉牛肥育と東京市場出荷の取り組み事例などを紹介されました。折りしもその日、柳監督は映画上映会で海士町に滞在、また、八丈町長と海士町長は全国離島振興協議会の副会長同士で親しいという話になり、島と島はこのようにして繋がっていくのだと勉強させられました。

インターネット社会は、島と本土、島と島を近づけてくれますが、実際に島に行かなければ分からないこともたくさんあります。波の音、潮風、森林の匂い、花の香り、島の食材、無の空間・・・島ではあたり前のものばかりですが、



「八丈祭」撮影後の記念撮影。

じつは、健康の糧や癒しの素材となっています。アイランドセラピーの研究も進んでいるといわれています。島の活性化にはいろいろな取り組みがあると思いますが、健康産業にも目を向け

八丈町商工会 <http://www1.ocn.ne.jp/~hachisho/index.html>  
八丈町商工会ブログ <http://ameblo.jp/shokokai-hachijo>  
八丈島FC <http://www.8jo-fc.com/>  
柳明菜監督 <http://blog.fruitmail.net/akina919/>  
八丈島映画応援団HP <http://8jo-cinema-sp.akinaakina.com>  
八丈島映画応援団ブログ <http://8jo.jugem.jp>  
東京アイランドCOM <http://www.tokyo-islands.com/>  
スーパーあさぬま [http://blog.goo.ne.jp/super\\_asanuma/](http://blog.goo.ne.jp/super_asanuma/)

て欲しいと思います。

島おこし実行委員会で行ったアイデア募集には四五〇点ものアイデアが寄せられ、島の取り組みべき課題が集約されていました。そのアイデアをどのようにして形にしていけるのか、シンポジウムやKJ法などで議論を重ねましたが、観光産業は総合的な背景になると空回りとなり、なかなか方向性は見出せませんでした。おそらく、多くの島で同じようなことが起きてい

る物見遊山ではなく、目的を持って島を訪れるといわれています。どのように人を魅きつける仕掛けをつくり取り組むか、これからの重要な課題となりそうです。

島と島との競争時代は終わりました。これからは、島と島をネットワークで結び、総体としての島の存在を大きくしていくことが大切です。日本の海洋を守っている全国の島々が、それぞれ活気あふれる姿を見せていくことで、島はもつともつと元気になると思います。いま、静かに離島ブームが起き

つあるともいわれています。これから、さらに新たな離島ブームを創っていきましょう。

(写真提供・林 冬人)

※注 羽田と八丈島間の航空運賃値下げ問題…普通片道運賃は一万七〇〇円だったが、平成一七年一〇月一日から特定便割引運賃「特割1」が設けられ、この運賃設定を使えば片道一万六〇〇円で利用できることとなった。ただし、一八年三月二日までの期間限定であり、この間に前年同期の実績と比べて一万人の利用増加がなければ、「特割1」の運賃を値上げするという条件が付けられていた。

## はちしょうしま 八丈島 data

伊豆諸島の南部、東京から南へ約287kmの太平洋上に位置する。面積69.48km<sup>2</sup>、周囲51.3km、人口8,587人(平成19年12月現在)。北西部に八丈富士、南東部に三原山がそびえ、亜熱帯性の自然を有する。江戸時代、2,000人もの人たちがこの島に配流されたことから、流人による独自の習慣、生活様式が現在でも残る。産業は漁業と農業が主となり、なかでもフェニックス・ロベレニの生産は日本一。



## 浅沼孝彦 (あさぬま たかひこ)

昭和20年八丈島生まれ。立教大学中退後、家業(商店・タクシー)に従事。のちにタクシー事業は他社と共同事業化品産を実現。同56年、全日本食品産ボランティアチェーンに加盟。平成4年、島内2地区(大賀郷・末吉)にスーパーマーケットの新店舗を出店。現在、全日食チェーン協同組合理事、東京都商工会連合会理事、八丈町商工会会長、八丈町代表監査委員を務める。